

平成29年10月13日（金）～10月14日（土） 公明党議員団 加藤代史子

男女平等参画について考える

日本女性会議 2017 とまこまい

北の大地で語ろうこれからの未来の一步を

苫小牧市では平成25年「苫小牧市男女平等参画都市宣言」をされています。

- 1、互いに支え合うあたたかい地域をつくります
- 1、手をたずさえ責任を担う家庭をつくります
- 1、個性や能力を活かせる職場をつくります
- 1、平等意識を育てる教育をめざします

今回の女性会議は34回目、「男女平等参画について考える」大会です。

苫小牧市は平成19年「苫小牧市男女平等参画推進条例」を施行し「男女平等参画基本計画」を策定し計画に基づく各種施策に取り組み、平成25年に「男女平等参画都市」を宣言し、男女平等参画に向けた歩みを続けています。

日本女性会議のスタートは国連総会における国際婦人年の発信でした。そして1984年日本で第1回日本女性会議が始まり34回となったわけです。

国においては1999年平等社会の実現こそが21世紀の重要課題として「男女共同参画基本法」が施行されています。

「男女共同参画」への取り組みは大変地域差があり、国の思惑とは違い進んでいないのが現状です。常滑市の取り組みも「男女平等参画」の推進を行っていますが、本当の意味での平等については地域の中から自主的に少しずつ浸透し、当たり前ようになっていくのいいと思っていますが、意識改革のためには市からの働きかけも重要だと思っています。

苫小牧市のように「都市宣言」までして市も市民も企業も「男女平等」に向かうことが重要だと思いました。

1億総活躍社会の中、女性の活躍がカギとなっています。そのため子育て施策、働き方改革など解決しなければならない問題はありますが、女性の意識改革を進めることが重要です。子育て支援に力を入れている本市としては「男女平等参画」は進めていかなければならない重要課題と捉え、今後もしっかり勉強し、どのように進めていくのか働きかけをしていきたいと思いました。女性が活躍できるためには何が必要か、家族、地域、社会全ての助けが必要です。一人一人が声を上げやすい、またその声を聞く体制の整備をして、常滑に住んでよかった、子育てしてよかった、そんなまちづくりに向けて頑張ります。

10月13日（金）

日本女性会議開会式

特別揮毫・講演「ちがいはかけがえのない個性～ダウン症の娘と共に生きて～」

書家である金澤翔子さんの揮毫 「共に生きる」力強い書

金澤泰子さんの講演

はじめから書家に育てようとしていたわけではなく、色々な人生の岐路に書道を教えたそうです。そして二人を見守ってきたお父さんが亡くなり、これからどのように生きていけばいいのかと思ったときに、ご主人の言葉を思い出しました。「成人の記念に翔子ちゃんの個展をやりたいね」そうだ「個展」をやろう。それから二人で頑張りました。

個展は1回の予定でありましたが、あっちからもこっちからも個展のお誘いがあり大盛況。泰子さんが驚いたのは「書」を見て感動し涙を流している人達です。何が感動を与えるのか。それは「魂」。喜んでくれるならと全力で取り組む。自分の保身など全くない。それが人に感動を与え、伝わるのです。

書は本当に力強い作品でした。終わりにマイケルジャクソンのスリラーを踊って見せてくれ本当に感動しました。

基調報告

「未来を拓く女性の活躍」内閣府男女共同参画局長 武川恵子

記念講演

「夢見る力 ～つながる幸せ～」劇作家・演出家・女優 渡辺えり

誰もが生き生きと暮らせる社会を考え、たくさんの人と出会い、支えあいながら舞台の活動を続け、劇作家として活躍されています。仕事は男性社会で女性は少なく、そんな中でも頑張っています。自分の生き方を通して楽しい話をさせていただきました。

交流会

前年度開催地 秋田市挨拶 次年度開催地 金沢市挨拶

苫小牧市の市長さんも参加され、参加者の皆さんと挨拶し楽しいひと時でした。

10月14日（土）

分科会シンポジウム

災害時に生きる私たちの「生き方」～「防災女子」は避難所を救う！～

講師 定池祐季 東北大学災害科学国際研究所災害復興実践学分野助教

講師 天野和彦 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授

ここではグループに分かれ、「さすけなぶる」のグループワークを行いました。この「さすけなぶる」は初めての経験でした。

災害時、仕方がないと考えがちですが、どんな状況でも人としての「尊厳」を考え、一人に寄り添い、考えることの重要性を教えてくださいました。性差である女性の視点。女性の視点で災害時に必要なことは何なのか考えられるよう、日頃からの訓練の必要性を感じました。グループワークではいろいろな意見が聞け、違う人の意見を聞くことの重要性も感じました。

記念シンポジウム

苫小牧発 男女平等参画社会を語る

～輝くオールとまこまい“市民・団体の力+企業の力+行政の力”～

コーディネーター 神田道子 東洋大学名誉教授

シンポジスト 高橋雅子 苫小牧男女平等参画推進協議会会長

原田和久 出光興産株式会社上席執行役員人事部長

菅原修孝 苫小牧埠頭株式会社取締役総務部長

岩倉博文 苫小牧市長

男女平等参画社会の実現には市民、団体、企業、行政がそれぞれの役割を認識し、責務を果たし、相互に連携することが重要です。今回それぞれの立場でお話をさせていただきましたが、企業との協力がとても大切です。高橋さんは「苫小牧男女平等参画協議会」を通して企業へ働きかけ、行政への陳情を続ける苫小牧市の男女平等参画が進んできた話をされました。出光興産の原田さんからは創業以来「人間尊重」の経営理念のもと社員育成を行ってきた話をされました。苫小牧埠頭の菅原さんは全員正社員の会社であると説明され、人材育成に力を入れていると話をされました。

今回の会議はこのような内容で行われました。「男女平等参画」という言葉はよく聞く言葉となりましたが、なかなか推進は難しいものです。しかし「女性活躍推進法」の成立のもと新たな問題提起をし、解決を目指し、女性が安心して社会で活躍できるよう、本市での推進を図っていきたいと思いました。